

2-2 種子の発芽温度と発芽後の生育に必要な温度は

発芽温度:①10℃以上 ②20℃以上 ③品種グループで異なる

生育温度:④15℃以上 ⑤25℃以上 ⑥品種グループで異なる

落花生の発芽する最低温度は12℃で、その後の生育には15℃以上が必要とされています。ただ、これは低温でも発芽と生育のしやすい変種ファスティギータであてはまる話で、現在我が国で栽培されている変種バージニアの品種や変種間交雑品種ではもう少し高い温度が必要と考えられます。ここでは正解を③と⑥としたいと思います。

更に細かく見ると各グループ内でも品種によって多少異なっていると推測されますが、実際に細かな調査はなされていないのが実情です。筆者は過去に北方のソビエト(現ロシア)でChicoという品種が栽培されていることを聞き、へーと驚いたことがあります。

その品種は農業試験場にも導入されていたので、注意して特性調査をしたのですが、他の品種に比べて発芽や開花は決して早くないが、開花後の登熟期間が短く早期に収穫できることがわかりました。登熟(成熟)のための積算温度が少なく済むということだと思いますが、生育に必要な最低温度との関係は不明で、研究すると興味深い結果が得られるかもしれません。その点も含めて、発芽温度や生育温度についての詳細な研究が望まれます。誰か、調べてみようと思う方いらっしゃいませんか。

正解 ③と⑥